

## 【 無料ダウンロード資料 】

これで納得！社労士試験の択一式が難化している決定的な理由を公開

※5分で読めます

今回は、**択一式が難しくなっている証拠を数値化して解説します。**

近年の社労士試験の傾向から、今後も**択一式の実力が合否のポイント**になります。

当資料は、私が過去の資料をもとに数値化しています。

個人的な見解となりますが、**択一式の傾向の変化が読み取れるので、今後の試験対策として非常に参考になるもの**と思っているので、ぜひ最後までご覧ください。

## 択一式重視と言える証拠がこちら

社労士試験は、今後も択一式の実力が合否のポイントになるのは、平成21年から令和6年までの「ページ数の増加」からわかります。

年度	回数	ページ数	H21 基準増減
平成 21 年	第 41 回	58 ページ	—
平成 22 年	第 42 回	58 ページ	±0
平成 23 年	第 43 回	58 ページ	±0
平成 24 年	第 44 回	55 ページ	-3
平成 25 年	第 45 回	60 ページ	+2
平成 26 年	第 46 回	56 ページ	-2
平成 27 年	第 47 回	64 ページ	+6
平成 28 年	第 48 回	59 ページ	+1

平成 29 年	第 49 回	58 ページ	±0
平成 30 年	第 50 回	61 ページ	+3
令和元年	第 51 回	62 ページ	+4
令和 2 年	第 52 回	62 ページ	+4
令和 3 年	第 53 回	68 ページ	+10
令和 4 年	第 54 回	64 ページ	+6
令和 5 年	第 55 回	60 ページ	+2
令和 6 年	第 56 回	66 ページ	+8

平成 21 年から令和 6 年まで択一式のページ数が増え続けています。

令和 3 年は平成 21 年と比較すると「10 ページ」も多くなっているため、時間内に解くためには「解答スピード」も必要になります。

単純にページ数が増えれば文字数も増えますが、試験時間は3時間30分と変更がないことも、難しくなっている要因の1つです。

## 択一式の傾向が変化している

次に、択一式の出題傾向です。

社労士試験は、平成24年以降になってから組合せ問題・個数問題が出題されています。

年度	回数	傾向変化
H24	第44回	組合せ問題（2肢）が出題され始める
H26	第46回	個数問題が出題され始める
R6	第56回	組合せ問題（3肢）が出題され始める

組合せ問題は平成24年、個数問題が平成26年から出題されています。

ページ数の増加に加えて、出題傾向の変化と択一式が難しくなっているのがわかります。

下記は、組合せ問題・個数問題の「問題数の変化」になります。

	R2	R3	R4	R5	R6
組合せ問題	9問	5問	5問	5問	10問
個数問題	2問	3問	3問	4問	6問

令和6年度は個数問題が増えているので、1肢ごとに確実な知識を求められます。

今後、社労士試験は択一式の難易度は高くなっていくと思われます。

私の経験から、社労士試験は択一の実力があるなら、選択式（難問除く）も得点できます。

したがって、択一式で確実に得点できる実力が必要になります。今後、「択一式」の変化に対応した勉強方法で対策することが重要です。

択一式の出題傾向の変化について、もっと知りたい方は、下記の記事で具体的に書いているので、ぜひご覧ください。



**参考記事はこちら**

---

クリック→ [【社労士試験 合格ライン予想 大原！】速報 2024年（56回）選択式・択一式](#)

しゃろうむ